

平成29年度 第1回八雲町行財政改革懇話会会議録（要旨）

- 日 時 平成29年6月26日(月) 13:30～15:10
- 場 所 八雲町役場 議員控室
- 出席委員 安田委員、山田委員、坂野委員、日村委員、棚田委員、東間委員、小西委員
- 町出席者 岩村町長、伊瀬副町長、三澤総務課長、鈴木財務課長、野口地域振興課長、
成田総合病院庶務課長
- 事務局 萬谷行財政改革室長、南川係長、浮須主事、富樫主事
- 傍聴者 なし

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 町長挨拶

本日は大変お忙しい中、行財政改革懇話会にご出席いただき誠にありがとうございます。また日頃より、町行政の推進に対しまして、ご理解とご支援をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。さて、先般開催いたしました衆議院議員石破先生と建築家の隈先生をお招きしてのまちづくり講演会においては、大勢の町民をはじめ、委員の皆様にもご出席を賜り、感謝を申し上げるところでございます。さて現在、第2期八雲町総合計画を策定中ではありますが、少子高齢化や人口減少に対応したまちづくりはもちろんです、13年後に開業が予定されている新幹線効果を最大限活かすために、新八雲駅周辺整備を核としてまちづくりを進めていくことが重要だと考えております。そのため、今年度から2ヶ年かけて駅周辺整備の基本計画を策定することとし、町民の意見を頂戴しながら進めてまいりますので、よろしく願い申し上げます。町財政は平成17年の合併時には、非常に厳しい状況であったことからこれまで八雲町集中改革プランや事務事業の見直し方針を作成するなど鋭意努力しながら行財政改革に取り組んできたところであります。おかげさまで、60億円以上の基金を積み立てることができました。町財政の詳しい収支状況については、後程財務課長よりご説明申し上げますが、いずれにいたしましても、町民に負担を強いるサービスの低下につながっているものもあります。これもひとえに町民の皆様のご理解とご協力があったことと深く感謝する次第でございます。本日は行政評価や平成29年度予算の概要と長期財政試算、事務事業見直し等の進捗状況などについてご説明申し上げますので、町財政に対する委員皆様には忌憚のないご意見を伺えればと思っておりますので、よろしく願い申し上げ、簡単ではございますがあいさついたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

4. 委員長・副委員長の選任

委員長：坂野委員

副委員長：山田委員

5. 委員長挨拶

ただいま、行財政改革推進室長よりご説明がありましたとおり、前任期に引き続きまして、今回委員長を仰せつかりました八雲町商工会長の坂野でございます。任期が2年ということで少しでも八雲町がよくなるようにしたいと思っております。委員皆様の忌憚のない前向きなご意見をいただいてこの懇話会が意義あるものとしたいと思います。簡単ではございますが、就任にあたっての挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

6. 意見交換

1) 事務事業について

①平成 28 年度特定事務事業に係る出前説明会の実施状況について

1～22 ページについて事務局より説明し、質疑を行った。

・質疑

(委員)

- ・出前説明会の実施方法だが、5番と7番、8番と10番の事務事業はそれぞれ同日に出前説明会を実施しているが、団体から説明してほしいと申し出たのか、町から依頼して実施しているのか、教えていただきたい。

(行財政改革推進室長)

- ・出前説明会の実施については、町の担当課から団体の会合等の日程を聞いてお願いをして説明を行っている。団体から説明の依頼をいただいて実施している別の出前説明会とは異なる。

(委員)

- ・幅広く意見をいただくために、違う団体に聞くことはできなかったのか。

(行財政改革推進室長)

- ・団体の会合等の日程と担当職員の業務の都合上、合わせるができなかったこともあり同じ団体に2つの事業を説明したという実態がある。

②平成 29 年度評価事業の選定基準について

23 ページについて事務局より説明した。

・質疑なし

2) 平成 29 年度予算概要と長期財政試算について

①平成 29 年度まちづくり予算及び②長期財政試算（平成 29 年 3 月版）について

24～26 ページについて財務課長より説明した。

・質疑

(委員)

- ・確認ですが、24 ページに記載のある一般会計 138 億 7000 万円と 26 ページに記載のある平成 29 年度欄の 143 億 8300 万円とあるが、あくまでも予算は予算、試算は試算という考え方なのか。

(財務課長)

- ・24 ページの資料については、あくまでも平成 29 年度の当初予算として 138 億 7000 万円という予算を組んだ。実際には当初の時点ではできるかどうか不明な事業もあり、追加

補正を見込んだ上で決算としてはどうなるのかということ。そして平成 28 年度から平成 29 年度へ様々な事情はあるが予算を繰越しなければならないという事業もあった。これらを踏まえて、実際には 138 億 7000 万円ではなく、最終的には平成 29 年度は決算を見こした中で 143 億 8300 万円になるのではないのかという試算である。私の説明が不足していたかもしれませんが、このような理由で数字が違っているということである。

(委員)

- ・町民にわかりやすい財政状況ということでは差をつけないほうがよいのではないか。当初予算の 138 億 7000 万円の時にははっきりわからないのか。

(財務課長)

- ・このご意見はもともとですが、実際にはわからない。平成 29 年 4 月以降にどのような形で事業が追加されるというのは、おおむね把握はしている。国や北海道の予算の関係もあり、実際には事業ができるかどうかはわからないということが実態であるので、その都度確実に国や北海道から補助金が入り事業ができることがわかった段階で追加の予算を組んでいる。また、平成 29 年度に予算を繰り越す事業に関しては、3 月末にならないとわからないということもあり、タイムラグ的に資料を作成し、町民にお示しするには不確定な要素がたくさんあり、それらを盛り込むことは町としては乱暴な説明になってしまう。

(委員)

- ・あくまでも予算は予算で、このような会議ではシビアな資料にするために試算という形で報告しているという捉え方でよろしいか。

(財務課長)

- ・あくまでも財政状況を見るためには試算の方で考えてもらい、24 ページの資料は、今年度どのような事業を行うのかということと町民 1 人当たりどれくらいお金を使っているのかという予算の概略をとして形で捉えていただければと思う。

③八雲総合病院収支見通し（平成 29 年 3 月版）について

27 ページについて総合病院庶務課長より説明し、質疑を行った。

- ・質疑

(委員)

- ・26 ページの⑩総合病院繰出金、⑪通常分、⑫特別分、⑬総合病院内部留保資金と 27 ページの⑭一般会計繰入金見通し、⑮うち基準内相当分、⑯うち基準外相当分、⑰内部留保資金は同じことか。

(総合病院庶務課長)

- ・26 ページの一般会計財政試算の⑩～⑬については、3 月定例会に報告した見込みの数字であり、27 ページの資料は決算の状況を踏まえた数字となっているので、病院でお示ししたこの数字を決算として捉えていただければと思う。

(委員)

- ・26 ページ及び 27 ページの平成 30 年度以降の数字はあくまでも見込みか。

(総合病院庶務課長)

- ・そのとおりである。

(委員)

- ・それであれば内部留保資金にこんなに差があつてよいのか。

(総合病院庶務課長)

- ・本来であれば整合性をとるべきであつたかと思うが、26ページの一般会計の資料は、3月定例会の資料をそのまま使用しており、それ以降病院として再度見直した中で最新の数字をお示ししていますので、整合性がとれていない部分をご理解いただければと思う。

(委員)

- ・あまりにも金額がかけ離れていないか。

(総合病院総務課長)

- ・3月の時点では、このような推移で見込んでいたが、2月と3月の入院収益が上がり、病院会計としては本来内部留保資金についてはこのように多く残る予定ではなかった。3月定例会でご説明したときは26ページの数字で試算していたが、3月に大幅に入院収益が上がり、大きく数字が変わったため、27ページの資料は最新版でお示しさせていただいている。

(委員)

- ・平成28年度の決算は、見込みより改善されたことから平成30年度以降も26ページの試算と27ページの決算の内部留保資金に差が出るということか。

(総合病院庶務課長)

- ・26ページの資料は、あくまでも3月前半での数字ということでご理解願いたい。27ページの資料は、3月31日現在と記載されているが、実際は決算が確定した最終的な数字に基づいた見通しとなっている。

(委員)

- ・平成28年度にこだわっているのではなく、平成28年度の決算した後なのか、決算を見込んで試算するのは別として、あくまでも将来の見通しを立てるときに一般会計でも病院でも見込みを出すかと思うが、試算をする段階で財務課は財務課で当然総合病院のことも考えると平成33年度では1000万円としており、総合病院では平成28年度の決算が終わってシビアな計算をして1億1900万円となっているが、こんな差があるものなのか。

(財務課長)

- ・一般会計としては、実際の病院会計の運営はわからないので、26ページの部分については2月末時点で病院から報告を受けた数字である。3月現在と記載してあるのは、実際に作成しているのは3月初旬であり、庶務課長の説明では2月末に数字の報告をしているが、収入関係は1ヶ月後でなければわからないということであった。ただ1億1900万円の内部留保資金がよいのかどうかという議論は置いといても、病院の試算によって一般会計からの支援額を考え直さなくてはならないということであれば、次に財務課で試算を行うときはこの額を見た中で考えていくことになるかと思う。ただ1億1900万円が多すぎるというような感覚ではまだいない。できればもっと持っていなければならぬだろうと思っている。

(委員)

- ・懇話会前の様々な会議で話しをするために、試算を資料として作成する段階で将来的な部分は見込みであるため数字は合わせたほうがよいのではないか。

(副町長)

- ・26 ページは3月定例会で報告した一般会計と病院会計の資料であるが、27 ページはたまたま今回病院会計が少しよくなったということで5月末の数字をお示しした。

(委員)

- ・27 ページの資料の決算は3月31日かもしれないが、この資料自体は3月31日以降に作られた資料ということか。

(総合病院庶務課長)

- ・決算的には5月31日なので、5月31日現在に作成したものとなる。

(委員)

- ・この数字は行政的に統一できないものなのか。

(副町長)

- ・統一することはできる。しかし、2月末の数字をおさえることはできるが、5月末に締めた病院会計の数字に3ヶ月のタイムラグが出てきてしまう。将来的な見通しを立てるとなると新しい数字でお示ししたいという病院の考えもある。

(委員)

- ・今回はよい方向に転じたが、悪い方向になった場合はどうするのか。

(副町長)

- ・悪くても報告はする。

3) 事務事業等の見直し方針の進捗状況について

28～31 ページについて事務局より説明し、質疑を行った。

- ・質疑

(委員)

- ・この表の見方を教えていただきたい。1番の議会だより発行を例にお願いしたい。

(行財政改革推進室長)

- ・当初計画していた平成28年度の見込みは、平成23年度の議会だよりの単価があり、平成24年度から単価が下がった。ページ数の単価とページ数を乗じて算出し、見込みと実績の差額を効果額とし、平成28年度は実績で精査をした。

(委員)

- ・28番の「小牧荘、ドリームランド管理」において、平成24年度に廃止しているが、ここに記載のある数字は現存したらこれだけの経費がかかるが、廃止しているのでこれだけの経費が削減になったということか。

(行財政改革推進室長)

- ・そのとおりである。

(委員)

- ・この評価はいつまで続くのか。

(行財政改革推進室長)

- ・計画は平成29年度までになっているので、この事務事業等の見直し方針として効果をまとめるのは今年度で最後となる。来年度に平成29年度の実績を報告して、この策定した見直し方針に基づく結果報告は終了となる。またこの評価以外にも日頃、町の予算編成上においても結果を踏まえながら見直しをしている。平成23年度に決めたものを基本的

な方針としてどのように進めてきているのかという経過も含めて報告していると捉えていただければと思う。

(委員)

- ・この方法ではあまり意味がないかと思う。続けていくのであれば違うことに力を注いだほうがよいのではないか。

(行財政改革推進室長)

- ・立てた目標に向かって進捗状況を毎年経過報告している。計画をそのままにしないで、その目標に向かって町として努力しているとわかっていただきたい部分と進んでいない部分もあるということをご理解いただければと思う。

4) その他

(行財政改革推進室長)

- ・次回の懇話会は、11月頃になるかと思う。

7. 閉会